

『幼稚園の現場から』

30・幼稚園の音楽活動（その1）

原町幼稚園園長 鶴谷主一（静岡県沼津市）

今回から、幼稚園を取り巻く音楽についての考察と実践活動をレポートしたいと考えています。（その1）は、幼稚園や保育園等の音楽の集大成の場である「発表会」を取り上げます。

原町幼稚園が考える音楽（教育）の目標、
**音楽を好きになり、
楽しむ心を育てる。**

◆この目標に至った理由いろいろ

音楽を聴くこと、カラオケで歌うこと、趣味で楽器を楽しむことは巷ではごく一般的に楽しいこととして定着してきているのに、いわゆる「教育課程」の中で扱われてきた「音楽」がいかにつまらなく、子どもたちの音楽嫌いや、苦手意識をつくり出してきたか。「音楽は苦手で…」という人が、カラオケで上手に歌うこともありますね。こんな乖離現象はどうして起こってしまったのでしょうか。

知人の音楽家が小学校6年生の鑑賞教室で演奏するというので、手伝いに同行しました。そして演奏会が始まる直前のこと。部屋に入るなり男性の先生が「まっすぐ並べ！」「きちんと座れ！」「演奏される先生にご挨拶！」。ニコリともせず子どもたちを“指導”していたのです。「これから演奏して下さるから動かず静かに聴くように！」というオマケも付きました。講師の先生に失礼があっただけではないという配慮だとは思いますが、これから音楽を楽しもうというときに、感性のシャッターを下ろすような導入を

見て、「こりやダメだ」と感じたのです。知識として音楽の法則や歴史を知ることと、感性に訴えかける授業は、分けて考えてほしいと思うのです。

私自身の音楽経験も大きな理由の一つです。幼少期から音楽教室に通われ、クラシックピアノの個人レッスンに移った頃から練習が苦痛でたまらなくなり、中学生になったとき、親に土下座してやめさせてもらいました。昭和45年当時、男の子がピアノなんてカッコ悪い…というような風潮もあったことは確か。

高校を卒業して幼児教育の道に進もうと思って再び鍵盤に向かったときに、幼い頃の悪夢の練習がとても有益だったことは認めます。（指が一応動くのです）そして同時にはじめたエレクトーンや、ジャズピアノを教えてくれる先生と出会い、自分は音楽が嫌いだったのではなく楽しくやる術を知らなかったんだ、「もっと早く出会えていれば！」という思いを持ちました。

・・・・・・・・・・・・・・・・

幼児教育を担う私たちの使命は、少なくとも子どもたちに音楽嫌いをさせず、音楽って楽しいという原体験を刷り込むことだと考えます。

だから、**幼稚園でやる音楽は、楽しくなければならぬ！**のです。

好きだったら、辛い練習だって乗り越えられるもんです。子どもの将来の話ですが。

そうは言っても

幼稚園で楽しくやってるんじゃないの？

そう思われる方が多いかもしれませんが、普段やってる音楽や、音楽を使った歌あそびやダンスは楽しくやっていることと思いますが、いざ演奏する側に立つ「発表会」という行事がからんでくると、そういう訳にいかなくなるのが辛いところです。

「上手に発表しなくちゃ！」「出来映え・見栄え」という縛りが、時に現場の先生や子どもたちを過度な練習に追い込んでいきます。

YouTubeで幼稚園、保育園の音楽発表会を検索すると、様々な発表会がアップされ、各園が独自の考えを持って音楽に取り組んでいることがわかります。

その中でも一糸乱れず大人顔負けの演奏を披露している子どもたちの動画を見ると、すごい！と思うと同時にどれだけ練習したんだろうかと気の毒になります。私が聞いた話では、マーチングや合奏の盛んな幼稚園では、それが幼稚園のウリとなるため、専門の講師が定期的に指導にあたり、幼稚園教員には次回の指導日までに子どもたちを指示された達成度まで上げておくというノルマが課されるそうです。教員は他のクラスに遅れをとらないように必死で練習させなくてはなりません。

いったい誰がそれを望んでいるの？

いちばん強く望んでいるのは、指導されている方でしょうね。もちろん担任がその立場にある場合もありますし、園の管理者もしくは園全体の雰囲気がそうになっていることもあるでしょう。ほんとうに保護者がそれを望んでいるかどうかは疑問です。しかし仕上がったパフォーマンスを見ると感動してしまうものです。大人は、揃っているもの、苦労したもの、予想以上のものが好きで、小さな我が子

が間違えないように必死に頑張っている姿がどれだけ感動を呼び起こすか！大いに評価し褒め称えるでしょう。園経営者はそのことは良くわかっています。

しかし練習過程で押し殺した子どもたちの本音はどこへ封印されてしまったのか、褒められて消し飛んでしまったのか・・・でも「発表会が終わったら、もうやりたくない！」という感情があるとすれば、「音楽＝楽しい」という図式は崩れていっていると想像します。楽しければ「もっとやりたい！」と子どもたちは言うはずですから。

もしもの余談ですが、私がピアノレッスンからドロップアウトしていなければ、素晴らしい発表をめざす方向に向いていたかもしれません。得意分野で成功した人は、その“ステージ”までみんなを連れていきたいと思うのも当然ですし、みんな乗り越えればおいしい果実にありつけるんだ！ガンバロウと叱咤激励するでしょう。

ある程度頑張ることは必要だと思いますが、過度な達成度を求めるひとりよがりな指導者のための発表会にならないように気をつけねばならないと思います。

.....

あくまでも主役は子どもたちです。幼稚園には音楽好きもいれば苦手な子もいます。

みんなが一緒に歌をうたったり、楽器を演奏するとき、音楽って楽しい！という気持ちだけは一致させよう！

そして「音楽を好きになる」という漠然とした目標設定となったのです。

漠然とした目標だから、 活動もそれなりでいい？

そういうわけにはいきません。

音楽は勝手にやっては楽しくないもので、
どうしたって法則や技術によって成り立
つわけです。

原町幼稚園でも「音楽会」という発表
の場を設けていますので、そこに向けて
ある程度の「クオリティー」を目指して
「楽しく」取り組んでいかなくてはなら
ないという使命があります。

「できた！」という経験が子どもの自
信や発達に繋がるのはいうまでもありま
せんが、楽しさと共にそれを実現するた
めには、ある程度の技術とノウハウを教
員間で共有する必要があります。**楽しく
やるためには、教員側の技術と感性は欠
かせないのです。**

私たちも、まだまだ試行錯誤しながら
取り組んでいるので、最終形ではありま
せんが、実はそろそろ行き詰まってきた
。敢えてマガジンで公開し、同じベ
クトルで音楽教育を進めていらっしゃる
方からヒントを頂ければという思いを込
めてお伝えします。

【園内教員向け提案より】

音楽会の概要

■毎年12月に沼津市の市民文
化センター小ホール（520席）
を使って音楽会を実施。

■右のプログラムに沿って子ど
もたちの音楽発表を行う。

■午前10時開演～11時半終了



音楽会舞台図/2016.12.16.FRI

原町幼稚園

■スタッフ24人「職員16、中畑2、シタワ新井、スミエ、バス2、撮影2」 ※敬称略

●担任 (6) 杉山、眞野、福水、木村、大川、西
●補助 (5) 伊藤、羽切/年長 大内/年中、高橋/バス&年少、日野原/受付&ロビー
●舞台袖 (4) 鶴谷、町田(司会)、総生、茂林、新井(幕) ●駐車場&通路 (4) 伊奈&細田
●楽器 (4) 小宮山、富士子、スミエ土屋、小林

本番前■朝の受付：日野原+高橋* ■マミー/ドア係=年中、座席園児係=年長 ■撮影/増山、小菅

■駐車場案内：伊奈、細田、小宮山 ■朝バス(1台)：町田、高橋→■帰バス：町田、高橋

■前日車両9台：鶴谷デリカ、小宮山クリッパー、茂林、渡辺、(T車/小林、西、福水、杉山、木村)

■当日車両8台：園バス、鶴谷デリカ、伊奈デリカ、細田デリカ+ (渡辺、土屋、増山、小菅)

No.	出演	曲	指揮c・伴奏	照明イメージ	控え場
1	先生 年中長舞台	うたえパンパン 「うたおあそぼうおんがくかい」	Pf小林 KR渡辺 マツ福水、鶴谷 ドンマツ杉山、眞野	会場全体 明るく	年少座席
	幕なし	KRプリセット曲(スクリーン/世界の名曲39 聖者の行進)			
2	年長合同 歌	誕生日のチャチャチャ	c杉山 Pf眞野	カラフルに楽しく	年中ロビー 年少座席
	幕なし	KRプリセット曲(ポップス/ジャズ13/トップオブザワールド)			年少ロビー
3	年少合同 合奏→歌	①あたまたのうででボン ②バスこっこ ③やまびこっこ ④山の音楽家 歌/あしたのともだち	C大川 Pf茂林 補/西 協力/小林、鶴谷	緑系 山っぽいイメージ	つきソデ ほし座席
	つき組 合奏	幕前で園長挨拶 歌/だいたいだいぼうけんのうた 奏/線路は続くよどこまでも	鶴谷 C杉山 Pf眞野 補/小林&ディ 後奏/渡辺	スポット カラフルに ふみきり赤点滅 歌=明るく	年中ソデ ほし座席
	中合同 合奏→歌	トイレ休憩(10分) 奏/アニメヒーローシリーズ ①スターウォーズ②宇宙戦艦ヤマト ③アルプスの少女ハイジ ④ルパン3世 歌/ぼくらはみらいのたんけんたい	C福水 KR&MC木村 協/小林、渡辺	①②キラキラ系 ③緑系 花&雲 ④赤系 歌=青空&虹	ほしソデ つき座席
	幕	幕間・インタビュー歌謡 奏/①ぐうちょよばー ②ちようちょ ③ぶんぶんぶん 歌/笑顔がかさなれば	キーボード? C眞野、Pf杉山 後奏/渡辺	場内スポット 楽しい感じ 歌=さわやか	つき退出 年中ソデ 年少楽屋廊下
6	年長ほし組 合奏→歌	終わりの挨拶(園長)		スポット	年中一年少 ほしつき
7	全員舞台	歌/ビリーブ	Pf茂林 KR総生 MC眞野	暖かい感じ 雲	
終了 誘導	幕(撤機) BGM(CD)				

うたおう あそぼう おんがくかい

《音楽教育の大きなねらい》♪音楽を好きになり、楽しむ心を育てる。

原町幼稚園のめざす音楽会は、一生懸命練習してきた成果を発表する結果としての場「ほお～、よく練習したねえ～」というゴールではなく、一生懸命練習したら「ほら、こんなに楽しくできたよ」という会。そして楽しかったねえ、もっと聞きたい、もっと歌いたい！とあとにつながることでできる音楽会です。

私たちが受けてきた従来の音楽教育では、楽譜に基づいて歌えること、楽譜を楽器で演奏できることが重視され、簡単な譜面から高度な譜面まで段階的にこなせるようになることが音楽教育の流れとなっていました。そのため、稽古事の成果発表としての会の意味合いが強い要因だと思いますし、聴く側もそれを求めてきたのだと思います。

音楽技術の上達を目的としたお稽古に通う子どもの集団と違って、幼児教育や学校教育では様々な方向性を持った子どもたちを一度に教育します。その過程では音楽が好きになる子どもも苦手と思う子どもも両方育てられてきました。音楽を聴くのは好きだけど、自分がやるのは苦手。という人が多いのは、それまでの教育のマイナスの側面だとは思いませんか。

子どもにとっての音楽は、そもそも生まれたときから得意不得意という意識なく育っていく過程で身につけていくもののような気がします。まだ苦手意識の薄い幼稚園の教育において、苦手意識を感じさせないで育てていきたい

と思います。音楽に出合ったときに、その入口で引き返さずに、楽しそう！という感覚を持ってスッと入っていけるような感覚を持って卒園して欲しいと願っています。

さて、そのためには教える立場の教師がどんな心構えで、どんな技術を持って臨まなくてはならないか。指導者の面から見ると手間がかかり、難しいことです。なぜなら、音楽を表現したり演奏して楽しむには一定の歌や奏楽の技術が必要で、さらに子どもたちを楽しませながら音楽的な発達を促していくのは更に技術や感性が必要なのです。

子どもの気持ちに関係なく、歌の時間だから先生の伴奏に合わせて歌わなくてはならない。合奏を覚えなければならない決まり切った音楽活動にならないように、日頃から気をつける必要がありますし、スキルを上げつつねらいを達成していきたいと考えます。



オープニングは先生主導で楽しい曲で声出しリラックス

《うたおうあそぼう音楽会のねらい》

- ♪自分を十分表現し、発表を楽しもう！
- ♪先生と一緒に音楽であそんじゃおう！
- ♪かっこよく歌って演奏しよう！

♪うたおう＝気持ち良く声を出して自然に歌おう。

無理に出した大きい声でもなく、
大人並みに発声をコントロールされた声でもなく、自信がなく小さな声でもなく、仕方なく歌
わされた声でもなく、子どもたちの楽しい気持ちが伝わってくる歌を！



♪あそぼう＝リズムに乗って楽器のアンサンブルを楽しもう。

リズムはキッチリ合わせて、
リズムさえ合っていれば勢いで音程をミスタッチしても、すっぱ抜けてもドンマイ！
身体も顔もリズムに集中させて楽器を演奏する。そのためには、身体の中にリズムを刻み込
む。楽器を持つ前にまず身体から！
自分のリズムが刻まれたら、他の人の楽器の音も感じてみよう。

《年齢別のねらい》

◆年長児…さすが感！

- 曲の感じをつかみ、友だちの声、伴奏を聞きながら声を揃えて歌う。
- ビートにあわせて楽器を演奏したり、動いたりする。
- 自分のパート、友だちのパートのリズムを理解し、自分のパートを責任持って演奏する。
- 歌や演奏のリズムに集中する。

◆年中児…こなれ感！

- リズムに乗って、どならないように注意しながら自然体で元気で歌う。
- いろいろな楽器に触れ、ビートに合わせて楽器や身体を使って楽しんで演奏する。
- リズムのちがいを理解して自分のパートで楽器をならす。（組曲の場合）

◆年少児…いっしょに感！

- ビートに乗って楽しく歌う。
- 楽器や身体を使っているんな音あそびを楽しむ。
- 音の長短、強弱を感じて楽器をならす。

《音楽会のキモ！》

- 音楽会では年少、年中、年長の発達段階がはっきり見えること。
→年少、年中とやってきたことが年長で完結する。
- 演奏技術よりも、子どもが音楽会を楽しんでいる、表情を重視する。
→練習の段階から楽しく、お客さんも楽しんでもらおうという意識を持っていく。
- 客席からの見栄え、演奏後のあと味の良さを感じさせること。
→曲のイメージ、選曲、演出が重要になってきます。
- 一人一人がオマケ（ちょい役）にならず、しっかり参加していること。
→その子に合った参加の仕方を工夫する。
- 大人側の演出で盛り上げ、子どもの練習負担を軽くして、発表効果を上げる。
→たとえドだけを弾いていてもアンサンブルで気持ち良く弾ける。

○飽きない練習を計画しよう。

→合奏の練習で楽しさを追加していくには毎回ちがうエッセンスを加えていき、
できることが楽しい、リズムが合うと楽しいという練習の楽しさを重ねていく。

《歌の指導ポイントはここだ！》

(楽しい雰囲気の中でうたうこと！)

◎まず、子どもにアピールできる声、発声を心がける。

※いつも同じ調子ではなく子どもに「あ、何か始まるぞ？」と注意を促す声

※パツと注意をよびおこし、そのあと小声で集中力を持続させる声

※聞きやすい声、話し方、歌声を意識

※指示のことばを極力へらしていく→いつも「はい、歌いますよ」と断らなくても伴奏が
自然になり始め、歌の活動へ導入することで、子どもの耳を育てる

※年少ほどことばより音楽そのもののヘダイレクトに入れる

◎音域を考慮する。子どもにとって音域外の音は出ません。(レ～上のミが限度)

◎保育者が曲をよく聴き、まず保育者が正確にまた表情豊かに歌って聴かせる。

◎曲をメロディーから教えずに、ビートから教えていく。

※ピアノなど伴奏に頼りすぎない。むしろビート（テンポ）を重視し、テンポを変えずに歌
ったり演奏することに気をつける。

※カスタンネットや手拍子の伴奏だけで歌ってみる。

○歌うだけでなく、身体を使って動いてみたり、拍子を打ってみたり、指導のポイントを毎回し
ばり、新しい刺激を少しづつ与えて飽きずに新鮮な気持ちで本番に望めるようにする。

○自分がよく歌い込んで曲想をつかむこと、子どもたちもお気に入りの歌をいくつか手持ちで
もっておく。

○どならずきれいで大きい声が出せるよう意識させる。

※どなっているときは途中でも中断して気付かせ、実際に歌ってみせて歌声の違いに気づ
かせる。

○歌い出しが揃って出られるよう気をつける。

※歌い出しに限らず、つまづくところ、リズムなどを間違えやすいところは部分的に練習す
る。

○目線に注意、前方上の方を向いて歌う。

※目印を指定してあげるとよい ※部屋の中の物（時計など）を見るなど。

○口の形をはっきり開けて発音すること。

※歌詞をゆっくり群読しても良いでしょう。

○楽譜通りに弾くことに労力を奪われない、簡素化しても気持ちよく歌えれば良い。

○シーケンサーに伴奏を入れて再生し、子どもの前で歌う。

○ダラダラと飽きるような活動にしない。

○楽しい雰囲気を作ったり、楽しい活動の前やあとに歌うなど、いい雰囲気です歌うことを心が
ける。

○歌詞の意味を子ども自身も分かり、状況を思い浮かべながら歌えるようにする。

○好きなフレーズ、サビの部分から入り、その他のメロディーや歌詞は少しづつ覚えていくのも
一つの方法。歌詞を紙に書いて貼ったりしないこと！

○動きを入れると演出は楽しいが、声は出にくくなるので歌をしっかりと聴かせたいときは配慮
が必要だが、あそぶという点から有効なので取り入れていきたい。

○音楽的な楽しさ、輪唱に挑戦して幅を広げる。

《リズム楽器指導のポイントはコレ！》

(一定のビートをキープする)

◆リズム感を身につける

- 子どもたちが楽しくリズムに乗るためには、まず保育者がリズムに乗れなければ指導できません。自分がリズムに乗れるよう事前に練習する。
- 身体でリズム（基礎リズム）を感じることができるようにする。
※手拍子、足踏み、歩く、揺れる、跳ぶ、ギャロップ(年少)、スキップ(年中長)など楽器をもつ前にいろんなリズムを身体で表すことでリズムの感じを表現する。それから少しずつ楽器の種類をふやしていく。
- リズム音痴は、運動面とのつながりが深いと思われるので、ケンケンパー、グーグーパー、幅跳び、けんけん跳びなど全身での運動を促す。
- 基礎リズムの出てる歌（曲）を手拍子でたたいたり、歩いたりする。
- ことばとリンクさせた手拍子あそび。ライオン→♪♪♪♪/年少は四分音符のみ。
- 音楽に合わせて動くわらべうた、歌いながら動いてみるリトミック的なものを活用する。

《楽器合奏指導のポイント》

- 打楽器は押さえつけて音を出すものではありません。
- 打ち放つことによって音を出します。打った瞬間に離れて音を出します。
- そのための練習として、手拍子を丸く打つこと(シンバルを打つように)から始めます。
- 楽器それぞれの正しい持ち方、音のでない持ち方がきちんとできるようにする。
- それぞれの楽器の音色の特徴に気づかせる。
- 楽器に触れる子どもの様子をよく見て一斉と平行してにパート別に指導する。
- 数種類の楽器を使う場合は一人で指導するより複数で指導する方が効果的。協力して行う。
- 歌と同じく、ポイントを絞り新しい刺激を毎回加えていく。
- リズム譜は、市販の物を使う方が構成が優れているが、難しい場合はそれを改良する。
- リズム譜を自分で作るときは、下書きをした段階で、共同作業に移り、実際に音を出したりしながら共同で仕上げる。
- 手作り楽器の活用もオモシロイ。
- リズムがぴったり合ったときの気持ちよさを感じる。（聴く、見る）
- 曲選びは、とても重要である。

※年長組の合奏曲は、子どもたちがメロディーを弾き奏でられる素朴で親しみのある曲から選ぶ。ディズニーシリーズのようにイメージができ上がってしまっている曲を選ぶと華美で良さそうに思うが、却ってそのイメージにとらわれてしまいそこに子どもたちを合わせていこうという意識になるので良くない。できることをステップを踏んで積み上げていく活動が望ましく、そのために適した曲を選ぶこと。

※年中組は、全員で合奏をすることと、子どもたちがリズムパートのみの演奏、大人がメロディーを奏でることから、メリハリのついた組曲が望ましい。先のディズニーシリーズのようにイメージのでき上がっている曲も可能で、それぞれの打楽器を大人の演出で盛り上げていく。

※年少組の合奏曲は、子どもたちが歌も知っているシンプルで楽しい曲が望ましい。

《プラスαの効果を得る！》

- うたの会を行うこと→クラス同士歌い合ったり、見合ったりすることで、自分がやっているときには気づかないことに気づかせたり、意識を高めていく。
- 保育者同士もお互いに意見や感想を交換し合い、アドバイスし合うことが必要。
- 時には指導者が替わることで、バランスの良い指導ができる。

◆**合奏の楽器選びは**、楽器の説明と役割、演奏パートをよく子どもが理解したうえで、担任の意向を聞いて子どもが決めていけるようにしたい。重複した場合はできるだけ話し合いを行い、納得したうえで楽器を決める。くじ引きやジャンケンは最終的な手段とするが、リハーサルと本番で交代するなど配慮する。（最終的には担任の意向に沿う様に持っていけるように話をするのが望ましい。）

◆**なんととっても日々の保育が大事！**

音楽会のねらいは、音楽面に絞られていますが、保育は本来色々な要素をからめておこなっていくものです。従って、音楽会という行事を期待を持って待つことができるように、また自分たちの音楽会という気持ちを持てるよう、プログラムなどの小物、演出の小道具を作ったり期待を言葉で表したり、音楽面以外の活動もクラス内で充実させていきましょう。

《**本番に向けて舞台映えを考えていこう**》

演出は、歌う側にも見る側にも楽しく、印象的な効果をもたらします。
曲のイメージをよりふくらませたり、楽しさを演出することも重要です。
練習に負担がかからないように演出を工夫しましょう。

○演出例：小物、小道具、大道具、（吊りもの、ライティング）ストーリー仕立て、振りつけ、交代で歌う、手拍子、伴奏楽器を工夫する、会場を巻き込む、照明、座る立つ、投げ上げる、入退場のつなぎなど。

※特に年少は大道具や小道具で盛り上げると効果的。

※幕間では発表曲の紹介、エピソードをアナウンスします。

◆**幕・照明・音響**

○プログラム進行中の幕はヨコ開閉の「割りドン」（手動）を使います。

幕のないところは「つなぎ演出」が必要です。

○緞帳が閉まる場所に立たないように気をつけて下さい。

○照明はバックの幕にライトを当てて色を出します。スライドも使えます。

☞曲のイメージをセンターの舞台担当者に伝えます。

○音響は、マイクの位置などを要請します。集音やバランスはセンターに任せます。

◆**指揮、伴奏、配置など**

○指揮は子どもたちをリードする大切な役目です、リズムを正確に、子どもたちの集中力を高め、曲の歌い方を伝えられるようポイントを押さえて行いましょう。（指揮法の学習）

○広い会場で行いますので、子どもたちも緊張しがちです。歌を歌うときには担任が指揮をすると子どもが安定しますが、できない場合は一緒に歌うようにして下さい。（立つ位置は雛壇1段目の中央、この場合は後ろをあける。もしくはサイドに立って一緒に歌うようにします。）但し、合奏、リズムが難しい場合、演出が細かい場合等は指揮が必要。（指揮の場合も中央をあける）

○おじぎは担任が代表して行いますが合同での場合は指揮者が演奏前後に、指揮をしない場合は演出によって演奏前のおじぎを省いても構いません。（園児全員でのおじぎはしません）

○伴奏はグランドピアノ、電子ピアノ、ギター（事前に打ち合わせ必要）、シーケンサー、パーカッションなどが使えます。

- 配置は、観客に見えるようにとくに全学年で並ぶときは背の高さなどに注意する。（かぶり物をしたときは更に配慮が必要）また、保育者が子どもの前に立って何かを行う場合は同じ位置に長く立たないで、位置をずらして見えるようにする配慮をしておく。

◆本番での配慮

- 子どもたちをリラックスさせ、十分に力が発揮出来るようにすること。
- 歌う前は子どもたちに目線の位置を具体的に示し、落ちついてできるよう声をかける。
- トイレには早めに行かせる。
- 位置、楽器などの確認を確実に行う。
- それでもミス（楽器を持っていないなど）に気づいたときは速やかに仕切りなおし、そのまま流さないようにする。
- 舞台にいると見えないこと（トイレに行きたくてもじもじしている、喧嘩など）は、舞台ソデや会場から見ている保育者がフォローし、速やかに対処する。
- おふざけが出てしまう子どもは、事前にしっかりと話をし、演奏中でも保育者がそばにつくなど配慮する。
- 入れ替え、準備はテキパキと動いて下さい。時間短縮を常に心がけること。
- アクシデントが起こっても、常に笑顔で冷静に対応する。
- 子どもたちをリラックスさせられるよう、余裕を持って接するように心がける。

◆その他・運営面など

- ◇楽器のパートの割り当てについては、使用する楽器を紹介したあとで、自分のやりたい楽器に手を上げ、人数多数の場合はクラスでオーディションを行い、目をつぶって子どもたちが手を上げて決めていきます。話し合いで譲り合うこともあります。それも成長の機会と捉えます。
- ◇会場の保護者座席は、学年ごとにおよその場所が決まっており、子どもによるくじ引きで優先順位を決め、担任が子どもの立ち位置から見え方を考慮して座席を決めます。
- ◇音楽会の撮影は、会場内では一切禁止です。自分の目でしっかり見てしっかり拍手をして頂きます。
（個別のケースは割愛しました。）

◆さいごに

目標を達成しようと思ったら、園児の保護者の皆さんにも、同じ目標を共有して頂かなくってはなりません。そのためには、文書や口頭で、園の方針を伝えることと、各クラスからそれが具体的に行われている様子を発信していくことが必要です。

ただ、発信してもそれが浸透しているとは限りません。発表会には両親をはじめ、祖父母、叔父叔母などの皆さんもいらっしゃるのです。

そこで、ショボい発表を見せておいて「子どもが楽しんでいるからいいんだ」というのは園側の傲慢と努力不足だと思います。

子どもたちの楽しんでいる表情を見て頂くことはもちろん、音楽を通して会場が同じ感動を共有する場を演出しなければ、目標に賛同して頂く道のりも遠くなってしまいます。

子どもたちに過度な負担をさせずにそれを実現するには職員側で音楽的な演出を担っていくこと。今のところカギはそこにあるかなと思いながら進めています。



クラスの発表が終わって満足した顔でごあいさつ



アニメメドレー・私もルパンの役で盛り上げました



全員でエンディング・会場と一体感



紙吹雪でフィナーレ



原町幼稚園 園長 鶴谷主一

HP : <http://www.haramachi-ki.jp/>

MAIL : office@haramachi-ki.jp

Twitter : @haramachikinder

「幼稚園の現場から」ラインナップ

- 第1号 エピソード (2010.06)
- 第2号 園児募集の時期 (2010.10)
- 第3号 幼保一体化第 (2010.12)
- 第4号 障害児の入園について (2011.03)
- 第5号 幼稚園の求活 (2011.06)
- 第6号 幼稚園の夏休み (2011.09)
- 第7号 怪我の対応 (2011.12)
- 第8号 どうする保護者会? (2012.03)
- 第9号 おやこんぼ (2012.06)
- 第10号 これは、いじめ? (2012.09)
- 第11号 イブニング保育 (2012.12)
- 第12号 ことばのカリキュラム (2013.03)
- 第13号 日除けの作り方 (2013.06)
- 第14号 避難訓練 (2013.09)
- 第15号 子ども子育て支援新制度を考える
- 第16号 教育実習について (2014.03)
- 第17号 自由参観 (2014.06)
- 第18号 保護者アナログゲーム大会 (2014.09)
- 第19号 こんな誕生会はいかが? (2014.12)
- 第20号 ITと幼児教育 (2015.03)
- 第21号 楽しく運動能力アップ (2015.06)
- 第22号 (休載)
- 第23号 大量に焼き芋を焼く (2015.12)
- 第24号 お話あそび会その1 (発表会の意味)
- 第25号 お話あそび会その2 (取り組み実践)
- 第26号 お話あそび会その3 (保護者へ伝える)
- 第27号 おもちゃのかえっこ (2016.12)
- 第28号 月刊園便り「はらっぱ」 (2017.03)
- 第29号 石ころギャラリー (2017.06)
